

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、あらゆる差別をなくし、自他の生命を尊び、知性・感性・道徳性・体力に富む、心身ともに健康な児童を保護者・地域と協働して育てる。そのため、自立と社会参加をめざし、自ら学び、考え、行動する力や個性を伸ばし、思いやりと規範意識を培い、共生社会を生きる上での基礎を育てる学校教育を推進する。 ○進んで学ぶ子 ○心やさしい子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童と共に・・・知・徳・体の調和のとれた児童を育成する学校 ○家庭・地域と共に・・・保護者・地域と協創する学校 ○全教職員と共に・・・組織として教育力を発揮する学校
○児童・生徒像	○問題解決的な学習や体験的学習を通して主体的・対話的で深い学びを目指すとともに、ICTを活用し、知識・技能、思考力・判断力・表現力を身に付ける。 ○規則正しい生活習慣を行うとともに、いじめをしない・許さない、思いやりの心で誰とでも接し、自分を大切にする。 ○暑さや寒さに負けず、運動が好きでよく遊び、様々な運動を通して、基礎的な体力を向上させ、我慢強くなる。
○教師像	○校長のリーダーシップのもと、指導・事務・給食・施設など人的・物的な教育環境の充実に組織的に取り組む。 ○教育公務員としての使命の自覚、サービスの厳正、危機管理意識、人間性・社会性を向上させる。 ○研究・研修の日常化を図り、情熱をもって指導し、自らの指導力を高めようとする。 ○学校・学年・学級通信等の積極的な情報発信を行い、保護者や地域、関係者と円滑な交流を図り信頼関係を築く。

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】 開校22年目を迎え、地域に支えられている学校である。学区域外通学と外国籍児童が一定数入学している現状がある。地域の商店街、4大学との連携、PTAおやじの会など保護者・地域が一体となった活動が充実している。

【前年度の成果と課題】 ①年々、算数の学力が向上しつつあり、区の学力調査では全校通過率が4年連続80%を超えている。個人差が大きいののでA Iドリルを活用した知識・技能の定着を目指す。毎年、日本語が全くできない外国籍児童の適応と日本語指導が課題となっている。②基本的な生活習慣の定着率は約8割。児童は素直で明るく、高学年を中心として挨拶がきちんとできる。自己肯定感の傾向を把握する調査で、自分を大切にする児童の増加を目指す。③休み時間等によく遊ぶ。運動能力・体力調査は区の平均並み。体力向上の校内研究に取り組む。④就学前施設が20園を超え、交流園が増加している。⑤アレルギー対応児童が15名(エピペン6名)。⑥教育への関心が高い保護者が多く、商店会、町会、PTA、各ボランティア、おやじの会等、様々な面で協力的である。⑦4大学と連携、中学校と連携した教育活動に取り組んでいく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間(年度) R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン(A Iドリルの活用による知識及び技能の定着)、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力等	◎	◎	◎	◎	◎
2	約束を守り、思いやり、自分を大切にする心の醸成(規範意識・いじめの根絶・自己肯定感)	◎	◎	◎	◎	◎
3	体力・耐性を育てる(運動への意欲と体力、頑張る気持ち)	◎	◎	◎	◎	◎
4	様々な連携を図った教育を推進する(保幼、小・中学校、大学、地域等)	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
① 区学力調査目標通過率は、全校で国語(80%)、算数(81%)上回る。		全校－国語80、算数81							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習 パワーアップ タイム	全児童 国語 算数	毎週 火水木 金 国・算 朝15分	担任が確認や繰り返しを行う。AIドリルを活用し、個に応じた学習を行う。その他、国語(MIM・漢字等)、算数はBDプリントを使用する。	区調査及び東京BD3回	低位層3%以下。東京BDの結果を8%UP(年度末)			
2 継続	放課後 学習教室	個別指導 を要する 児童 (国算)	毎週 1回 放課後 30分	【指導体制】学年・専科等AIドリルの活用BDプリントの使用	各課題 東京BDの実 施(年3回)	低位層3%以下。東京BDの結果を8%UP(年度末)			
3 継続	夏季 パワーアップ 教室	個別指導 を要する 児童 (国算)	夏季休 業中10 日間 (うち 5日間)	【指導体制】全教員①学習内容が定着していない児童への補充。②学習時間を確保し、個別の指導を行う。【使用教材】AIドリル	夏休み前と後の比較(BD)	正答率8%以上のUP			
4 継続	定着テスト	全児童 算数	原則毎 回	【指導体制】担任算数の授業の終わりの数分、3問程度の適用問題をを行い定着を図る。	その時間内に 評価	算数の時間内 80%			
5 継続	ICT活用	全児童 各教科	適宜 最低週 1回	【指導体制】全教員・児童授業で児童がICTを使って学習する機会を確保する。	各授業時間	ICTを活用した 授業回数 (年35時間以上)			

重点的な取組事項－2		約束を守り、思いやり、自分を大切にする心の醸成（規範意識・いじめの根絶・自己肯定感）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学習、生活のルールを守り、他人を思いやる心を育むとともにいじめをなくす。		毎月の学習・生活目標の達成度 85% 学年末のいじめの9割解消 自己肯定感の前年度アップ			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
①基本的な生活習慣（挨拶、忘れ物、廊下歩行等）の定着を図る。	・毎月の生活目標の達成目標を設定（85%）	・生活指導目標を具現化し週ごと重点目標を設定する。 ・長期休業後に「いきいきカード」活用（肯定的80%）			
②いじめをしない、許さない心を培い、思いやる気持ちを育てる。	・保護者アンケートで「子供は学校が楽しい」という肯定的な回答が85%以上	・毎日、1回は子供どうしがよい点を発表する機会や場を設定する。 ・学年末に保護者アンケート。			
③児童の自己肯定感を高める	・hyper-QU結果向上。「自尊感情の調査」平均値（前年度）を上回る。「ダメな人間だと思うことがある」を前年より減少	・自己肯定感を高める場の充実（千寿の郷、商店街、地域清掃、未就園児と交流など） ・児童のよさを見つける機会や場の確保			

重点的な取組事項－3		体力・耐性を育てる（運動への意欲と体力）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・外遊びを奨励し、遊びを通して運動の機会を増やす。全校実施の運動を決め、体力の向上を図る。		・特定運動種目の2回調査と8%増			

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
①外遊びを奨励し、休み時間を確保する。	・学期に一度定点観測し、外遊びの人数 80% を目指す。	・個人や集団遊びを計画的に実施する。50m、反復横跳び、ソフトボール投げ			
②運動が好きな児童を育てる。	・体育の時間を中心として子供の技能を伸ばす工夫。	・体育朝会を実施し、全校への周知を図る。 ・教員の指導技術を学ばせる。			
③学校全体での計画的な体力作りを実施する。	・全校的な運動(持久走、長縄チャレンジ、短縄チャレンジ。)	・年間を通して体力向上を図るための計画を立て実施する。			

重点的な取組事項－4	様々な連携（保幼・小・中、大学、地域等）と連携した教育を進める
-------------------	---------------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・大学・地域の教育力の活用	・交流園から就学児童の増加。進学70%程度。4大学との連携、地域との交流学年1回。			

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
①幼保小の取組	教員交流2回、園児交流2回以上、訪問園増加	・保育体験、子供同士の交流機会の確保			
②小中連携の取組	年7回実施 授業研究3回	・児童と生徒の交流場面開発			
③大学、地域の教育力の活用	4大学との連携、学年1回地域と連携した教育	・教科内外の学習の一環として招聘。(理科・音楽等) ・開かれた教育課程として地域行事への参加等			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）